

短期集中連載

地域の財産となる社会人野球クラブチーム

—地域貢献活動の影響—

根本賢一 [熊球クラブ元部長、早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科修士]

第2回 クラブチームの財源と賛助会員制度

地域貢献活動の提唱

日本野球連盟は、2011年10月21日に基本理念と活動指針¹⁾を制定した。その中で社会人野球の活動指針の一つに地域社会の発展に寄与することを挙げ、社会人野球チームは地域社会、自治体、企業、そしてそのコミュニティーに生きる住民や仲間たちとの架け橋となって、喜びと感動を共有できる存在（地域の財産）となることを目指すとしている。

その具体的な活動として、

- ・ 野球教室等の開催
- ・ 施設の開放
- ・ ボランティア活動への参加

を掲げているが、日本野球連盟は加盟チームに対し地域の財産になるために地域貢献活動を提唱している。

地域貢献活動とは、社会貢献活動の中で特定の地域の社会的課題解決に目的が絞られた活動²⁾と定義されている。また、ソーシャルビジネス研究会は、社会的課題の具体的項目として高齢者・障害者の介護・福祉、共働きの実現、青少年・生涯教育、まちづくり・まちおこし、環境保護、貧困問題の顕在化³⁾と示している。

そこで本稿ではクラブチームが競技活動を行う上で、影響を与え、受けているエリアでの活動をクラブチームの

地域貢献活動と定義した。

賛助会員制度による運営資源

日本野球連盟にて08年に実施されたクラブチームアンケート調査⁴⁾によるとクラブチームの運営の財源は、クラブチームに所属する部員からの年会費が68.4%を占めていた。この会費以外の収入源は、個人からの寄付金11.5%、法人からの寄付金11.2%であった【図1】。

クラブチームのホームページの中で、賛助会員制度を導入しているチームの存在が確認された。賛助会費は法人・個人に分けられ、一口の金額が規定されている。賛助を希望する法人及び個人は、規定された単位に沿ってクラブチームへ賛助会費を納付する。賛助とは、「趣旨に賛成して助力すること」であり、賛助会費の納付はクラブチーム事業へ賛成した行動であるといえる。



ねもと・けんいち / 1968年11月10日生まれ。千葉県出身。千葉日大一高→日本大学一熊球クラブ。現役時代は外野手。97年全国クラブ野球選手権大会では、準優勝を経験。2007年に熊球クラブ部長に就任し、08年全国クラブ野球選手権大会に10年ぶりの出場を果たす。早稲田大学大学院スポーツ科学研究科にて、社会人野球クラブチームの運営方法を研究。13年3月修士課程修了。

これは、クラブチームへの支援方法として会員制度による資金提供が一つの方法であることを示している。

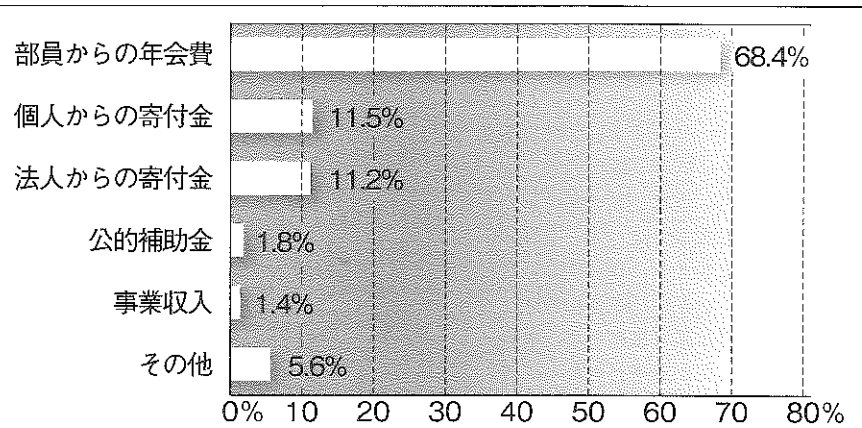


図1 クラブチーム運営費財源(収入) (出典)クラブチームアンケート調査 2008より著者作成

PICKUP クラブチーム

和歌山箕島球友会 [和歌山]

和歌山箕島球友会は、和歌山県有田市を本拠地とし1996年に設立された。有田市は、和歌山県中部に位置する人口3万人の市である。高校野球ファンであれば周知のとおり、今夏29年ぶりに甲子園へ出場した県立箕島高校があり、野球文化が定着している地域である。

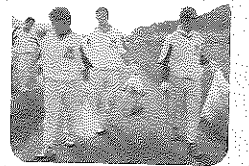
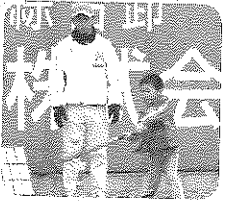
和歌山箕島球友会は、箕島高校硬式野球部OBを中心に96年に発足し、2006年に第31回全日本クラブ野球選手権大会に初出場した。決勝戦は近畿の強豪・大和高田クラブと接戦を繰り広げ8回に逆転し、初優勝を成し遂げた。その後、全日本クラブ野球選手権大会には、10年(35回)、12年(37回)と2回出場し、12年には準優勝の成績を残している。また、社会人野球日本選手権大会には06年(33回)、07年(34回)に連続出場。近畿の強豪クラブチームとなっている。

和歌山箕島球友会の地域貢献活動は、地域へ経済的な効果を与えている。特筆すべきは07年にNPO法人化し、活動拠点となるマツゲン有田球場ほか、有田市体育館及び初島庭

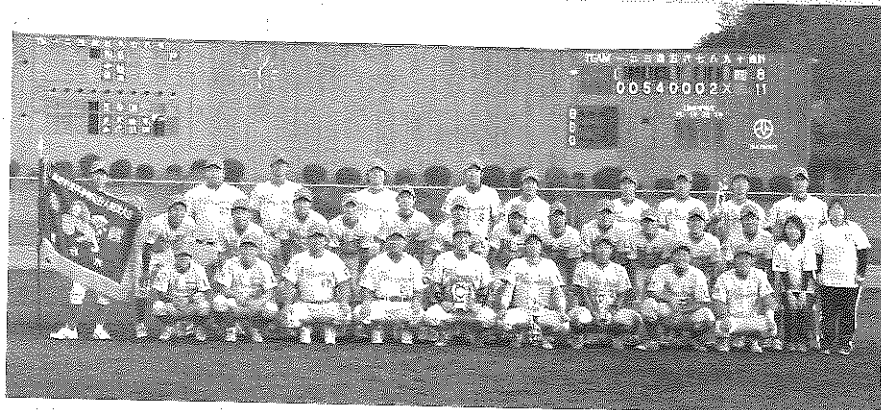
球場の施設管理業務を有田市から受託したことである。この施設管理業務を受託することでは、職員(5名)やアルバイト(4名)が必要となり、地域に雇用の機会を創出している。さらに、マツゲン有田球場にネーミングライツの導入や、スタジアム看板の広告を募集することで有田市への収入に貢献している。

和歌山箕島球友会は、大学硬式野球部と積極的にオープン戦を行っている。この活動により、マツゲン有田球場を大学硬式野球部側に認知させ、キャンプを誘致する機会となっている。大学のキャンプがマツゲン有田球場にて実施された場合、平日の球場稼働率も改善され、有田市の施設使用料収入の増加が図れる。強豪大学硬式野球部の場合、100人程度の野球部員が有田市へ訪問が見込まれ、その分の宿泊費、食費等が有田市にて消費されることとなり、地域経済への貢献になると想定される。

一方で、キャンプの環境整備には、和歌山箕島球友会がネットやマシンの設備を調達することで、有田市からの支出を抑えている。経済的な地



域貢献活動以外にも、環境保護となる地元幼稚園・老人ホーム及び有田川河川敷の清掃活動、まちおこしとなる有田市主催各マラソン大会の地域イベントのサポートなども行っている。また、青少年の教育や競技普及活動として親子でティーボールを楽しむ会、野球教室(小学生・中学生・高校生)を開催。このように、和歌山箕島球友会の活動は、地域の社会的課題の解決にも役立っている。和歌山箕島球友会の賛助会員数は、団体賛助会員47団体、個人賛助会員数177名(13年5月現在)となっており、地域貢献活動に対し多くの賛同を受け、競技活動の支援を受けている。地域の財産となった和歌山箕島球友会の支援者は、全日本クラブ野球選手権大会、社会人野球日本選手権大会、そして都市対抗野球大会での活躍を期待している。



引用参考文献

- 1) 日本野球連盟基本理念と活動指針の制定
- 2) 角和弘：地方企業の地域貢献活動に関する一考察—CSR/社会貢献活動の二つのフレームワークに基づく分析— 日本経営診断学会論集11,90-96 2011
- 3) ソーシャルビジネス研究会：報告書 2008.8
- 4) 日本野球連盟：クラブチームアンケート調査 2008